

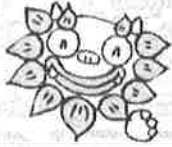


2012年2月15日 発行

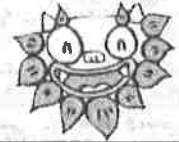
2012年冬号

<第18号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/下野英世 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 works-union@y3.dion.ne.jp http://www.v-aid.org/union/



ワークス集 沖縄旅行



記事は④頁

「たのしいことがたくさん」
ならのしかをみにいきまし
た。こどもが、おすもぅさん
をしたので、とてもたのし
かったです。

おきなわりよこうも、かい
ものしたり、おどつたりして
たのしかったです。ひこうき
ものりました。おみやげは、
ちんすこうをかいました。

ぼうねんかいもたのしかつ
た。いろいろしましたね。

ユニオンでネイルもしまし
た。あしゆもたのしかったです。
ネイルは、ピンクがすき
です。こんどは、きりぎらの
シールをはってみたいです。
いつてみたいばしよは、あ
りまおんせん、アドベンチャ
ーワールド、えいがにいきた
いです。てんのうじどうぶつ
えんにもいきたいです。パン
ダとキリンと、ぞうさんもみ
たいです。

したいことは、りょうりを
つくってみたいです。ハワイ
のおどりもしてみたいです。
しごとは、せんはかりをし
ています。わたしは、はんち
ようです。2012ねんのほ
うふは、もつとしごとをかん
ばりたいです。

(久保田 昇子)

暮らしを支える

「こんな暮らし あんなくらし
いろんなくらしがあつていい」

Aさんのくらし

Aさんは、以前は2LDK型ケアホームで生活して

いました。しかし、生活する上での些細なことから同室者との間でいさかいを起こしてしまい、次第に人間関係がしんどくなっていきましました。そのため、ワンルーム型ケアホームに引っ越ししましたが、そちらでも、人間関係に起因するトラブルが何度かあり、再度、しんどくなつてしまいました。そのため、昨年より、メゾン近辺のアパートにて一人暮らしをせざるを得なくなつてしまいました。本人は、自分のペースで暮らすことが可能な環境を手に入れることができ、日々順調に暮

らしていますが、一人暮らしをする上での課題も見受けられます。

Aさんの場合は、人間関係でのトラブルが多かったため、食事をメゾンで摂ることは、また本人にとっても、他の人にとつても、ストレスとなつてしまう可能性ががあります。そのため、夕食はヘルパーや職員と一緒に近くの食堂に食べに行つてもらい、朝食もヘルパーや職員が自宅に届けることにしています。他の一人暮らしをしている利用者さんと比べて、メゾンに来る機会が少ないため、職員との関わりは自室を訪問した際や、余暇活動の時などに限られてしまいます。そのため、今まで一緒に生活してきた利用者さんとの関わり

りが薄くなつてしまい、限られた人間関係になつてしまつたという課題があります。また、このままの形の一人暮らしで良いのか？という疑問も浮かんできます。現在は、一日の多くの時間を一人で過ごさなければならず、今後、身体機能等の低下が始まつた際には、必要などきに必要な対応ができるとは言いがたい状況です。Aさんのように、一人暮らしを希望される方の中でも高齢化を迎える人の暮らしに対する支援の方法について、検討していかねばなりません。(高橋)



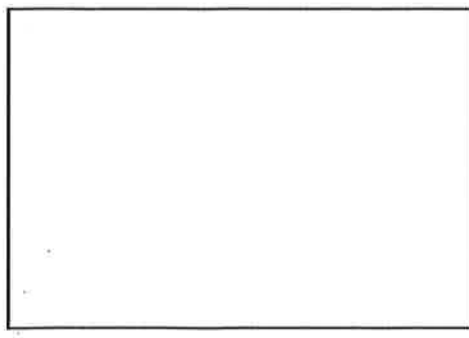
Bさんのくらし

Bさんは、もともとケアホームに住んでいましたが、年齢的にまだ若く、本人の可能性を閉ざしてしまわないようにという理由から、一人暮らしの話を職員から提案しました。本人自身も「広い部屋に移りたい」という想いがあつたことから、ケアホームから徒歩3分ほどのところにあるワンルームマンションに引っ越すことになりました。何か困つたことがあれば、職員が駆けつけたり、相談にのつたりできる環境なので、本人にとつても保護者にとつても安心感があるようです。

部屋が広くなり、狭いながらもキッチンがあるとこころが気に入っているようで、休日には自宅でヘルパーと料理を作ることが楽しみの一つになっています。Bさんの場合は、一般就労をしていることもあり、自分の収入の中から家賃を

支払うことができている。理想の部屋をイメージして、そこで暮らしたいと思うことは、私たちにとても自然なこと。数ある希望の中から、彼らの本当の願いを一緒に考えて支えていくことが、私たちに求められています。(原)

Cさん・Dさんのくらし



以前二人はメゾンケアホームに住んでいました。自分の部屋はありましたが、台所・お風呂・トイレは同室者と共同で使用していま

した。同室者とは壁で仕切られていたとはいえず、気持ちの上では一人の安らぐ時間が持っていたのでしようか？今はワンルームマンション(パークハイツ)で一人暮らしをしているCさんDさんに聞いてみました。Cさん「楽しかった」「ちょっと嫌な人もいてうるさかったな」

Dさん「楽しかったけど、気を使って疲れた」

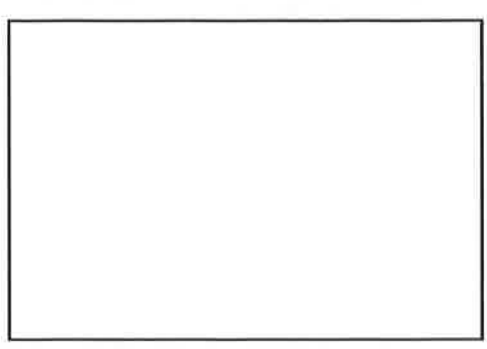
二人とも楽しめたようですが、ノビノビとくつろげる自宅だったかというところではなかったのです。

メゾンでの生活に満足できていない二人を見ていた私達は考えました。二人が一人暮らしをしたいと言うなら、一人暮らしをしてはどうだろうか？どういった

一人暮らしが二人に合っているのだろうか？そして出来たものが今のパークハイツでの生活になります。

パークハイツはメゾンに近い！そのことが何より二人にはとても大切なこと

でした。毎日仕事が終わるとそのままメゾンに来て夕食をとり、遅いときは21時頃までパークハイツの自宅には帰りません。せっかくの一人暮らしなのだから、もつと二人の時間を満喫すれば良いのに・・・それでも二人にはそのぐらいの一人暮らしが丁度いいのです。



では、どれだけ満足いくものなのでしょう？

Cさん「一人がいい」「さみしいな・・・」

「メゾンには戻れないのじゃない？」

Dさん「一人の部屋は静かでない」「一人ではさみしい時や不安な時もあるけど大丈夫だよ」

満足とは、先の長い支援ですね。(黒川)



めざすのは一人ひとりの
願いと状況に合わせた
オーダーメイドの
生活支援

ワークスユニオンは、三十人余りの人の日常生活を、「ケアホーム」と「居宅介護」の制度を活用しながら支えている。このニーズは、それぞれの家庭の状況を考えて、今後ますます利用者が増加し、近い将来には五十名は突破するだろう。

高齢期を向かえ「認知症」の症状の出る人や、手厚い「介護」が必要となる人も出てくるだろう。少しずつ「住まいのあり方」と「支援のあり方」の、幅を広げていかなければならない。

ワークスユニオンの生

活支援の利用者の多くは、地域社会の中での「一人暮らし」を「淋しき」ゆえ、断念した人たちなので、私たちの「生活支援」のベースは、「ケアホーム」を中心とした集団支援となっていく。だから、もう一度、「地域社会に溶け込んで暮らすことを目指そうよ！」と、言うつもりは、さらさらない。

しかし、利用者の人数が増えてくると、今までのパターンですべてがうまくいくわけではない。

「あなたは、今のままユニオンのケアホームの支援を受け続けるの？」「あなたにふさわしい生活を創ろうよ」と言っ、ちよつとおしゃれなマンションで一人暮らしを始めた人もいます。

私は、知的な障害を持つ彼らが、たとえ人数は少なくても他の利用者みんなと

仲良く暮らすなどということは、絵空事だと考えている。

だから、利用者に、「みんな仲良く暮らそうよ」とは言わない。しかし、「喧嘩は困る」。

ユニオンの利用者は、寂しがりやが多く、職員の間にも含めて人のことがとても気になる。

気になることをついそのまましゃべってしまい、いさかいが起きてしまう。職員は、利用者同士の人間関係が余りこじれないように常に気配りをしているが、時には修復しがたいほどこじれてしまうこともある。

人間関係がこじれてしまった場合、二人が接点を持たない生活環境を創る方向で解決を図る必要があるため、他の人との関係性を考えると、「二人暮らし」を選択せざるを得ない人も、今後まだ増えるのだろう。

(南石)

待ちに待った沖縄旅行

ワークス集は、去年の11月事業所旅行で沖縄へ行ってきました。その費用を貯めるため、一昨年は日帰り旅行にし、ようやく実現した旅行です。

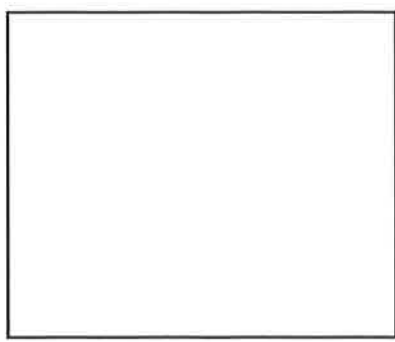
当日は早朝7時に大正集合でしたが、誰ひとり遅れることなく出発できました。飛行機の離着陸時には、怖さで泣いてしまう人や耳抜きが上手くできない人もいましたが、沖縄での楽しみを支えに乗り切りました。沖縄では暖かい気候の中、モノレールで移動しながら首里城や国際通りを観光しました。市場では豚の頭や足、海ぶどうやフグなどの珍しい食材に、皆さん目を奪われていました。

夜は沖縄舞踊を観ながらの夕食です。宴の最後には舞台に上げてもらい、踊り子や獅子舞と一緒に踊って、おおいに盛り上がりました。二日目はバスでフルーツランドへ向かい、亜熱帯の

植物や鳥などを観たり、黒糖作り体験を行いました。

食べ放題のパイナップルは少し酸っぱく、おかげで食べすぎてしまう人はいなかったようです。

最後は、空港近くの海に寄り、浜辺を散策しました。波から逃げて走ってみたり、白い星型の砂に感動したり、ひっきりなしに真上を飛んでいく飛行機に歓声を上げたりしながら、楽しい時間を過ごしました。

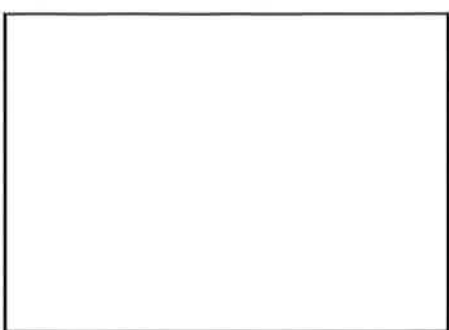


今回、初めての飛行機による遠出でしたが、無事に終えることができ、楽しい旅行となりました。「来年はどこがいいかな？」と、すでにそんな話題が上がっています。

(野々村)

職員紹介

島村 裕治 (左) 一集



照れ屋な一面がある彼。

結婚して二年になる奥さんとは仲が良く、休日はデートに行っているのだと、こっそり教えてくれました。ユニオンに入ってから五年間、ずっと集グループを見てきました。この仕事を始めてから、仕事でもプライベートでも人の言動に対する『何故』を考えると、利用者の些細な変化をいち早く感じ、温かく、時に厳しく対応にあたります。彼がユニオンで重ねた年数だけ、利用者も歳を重ねました。それを肌で感じている

(原・横田)

編集後記

るようです。大切なのは、生活の軸となるものがあること。利用者にとつてのその場所を創るために、彼は働きます。

中川 なるみ (右) 一和

人と関わる仕事が好きだと言う彼女は、今まで様々な職種を経て、ユニオンに入ってきました。昔から障害を持った人との関わりがあり、ずっとこの業界に興味があったようです。ユニオンに来て最初の頃は、めまぐるしい環境の変化や、利用者の対応に戸惑う毎日でしたが、楽しさを忘れずに日々支援にあたっていたようです。今では利用者から頼られることが、何よりの力になると自信に溢れた笑顔で語ります。

そんな彼女の趣味は、多彩で特に、ヨガハマっているようです。迷いがある時は、ヨガで覚えた瞑想を行い、至福の世界へ旅に出るそうです。

山川さんはかつて「彼らの地域生活を阻害するものは、金と性と孤独だ。」と語っていました。▼実際、地域での一人暮らしを断念した人たちを見ると、彼らの孤独は支援者が計り知れないほど深いようです。また、孤独は彼らの心身にも大きく影を落とします。しかし、ケアホームのような他人との暮らしも、彼らには大きなストレスとなつてのしかかるのです。▼ユニオンで支援を受け生活している人たちは、私たちの提供する支援に、現在はそのれなりに折り合いをつけて暮らしています。しかし、人の生活は日々変わつていき、年を重ねることで、これまでとは違った課題も浮き彫りになってきます。▼

彼らの求める生活の支援を模索しながらも、これからの支援に、まだ、これといった手立てがない私たちです。

(S)